

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は、日本の文化や歴史に興味があり、造詣を深め、様々な国の人に日本の良さを知ってもらいたいと思い、京都学を知ったのがきっかけです。同志社女子大学の社会システム学科なら、自分の学びたいことを学べてグローバルなコミュニケーション能力と社会での実践力が身につくと思、たからです。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

[1学期]

1学期の頃の私はまだ志望校が決まっておらず、明確なビジョンはありませんでしたが、2年まで使ってきた単語帳を毎日4ページずつ復習し、派生語、対義語、熟語、アクセントを意識して覚えました。また、英語の長文を毎日1題ずつ解き、要約文を書くことで読解力や要約力を身につけ、英文に慣れるようにしました。

[夏休み]

学校の補講があったため、お盆休み以外はほとんど毎日学校に行っていました。この大学を受験するのかを決め始めていたので、共通して必要な英語、古文、現代文を中心に力を入れて取り組みました。特に英語は小問集合を解く際に、論理的に文法の構成を考えて説明しながら解くことを意識することによって理解が深まり、自分はこの理解不足なものを把握することができました。

[2学期～入試直前]

過去問を解くことにより、同様の入試問題かどのような形式で出るとかを把握し、解き方に慣れるように問題形式の近いものを多く解くようにしました。学校での休み時間や下校時間なども、少しでも単語を覚えられるように友達と問題を出し合ったり、寝る前にその日覚えた単語等の見直しや今までやってきた単語・熟語テストを見直し解いたりしました。入試直前になると、新しいことに手を出すのではなく、今までしてきたことの復習や見直しをすることに力を入れていました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

受験勉強はもちろん大切ですが、体育祭や文化祭などの行事も大切にすべきだと思、います。今しかできない経験だと思、うので、私は力を入れて取り組みました。健康面では規則正しい生活が続けることと、食事に気を使っていました。勉強を頑張るにはまず健康な体が必要だと思、うので、少しでも不調を感じたら早めに寝るようにしていました。テレビを見る習慣はありませんでしたが、スマートフォンはよく使っていたため、1日の使用時間を制限し、自室に持ち込まない、課用品は箱にまとめて収納するといったように、誘惑に負けないように自分の視界に入れない工夫をしていました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

試験当日は慣れない場所で知らない人に囲まれて試験を受けるのでとても緊張しましたが、問題を解いていくと、自分の積み重ねてきた努力や先生方に教えてもらったことがし、かり自分の力になっているのを感じ、集中して問題を解くことができました。今の自分の努力は、き、と無駄にはならないので、自分を信じてがんばってください。